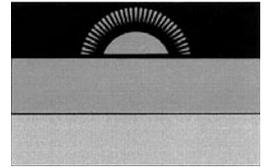


Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。



マラウイ共和国 国旗

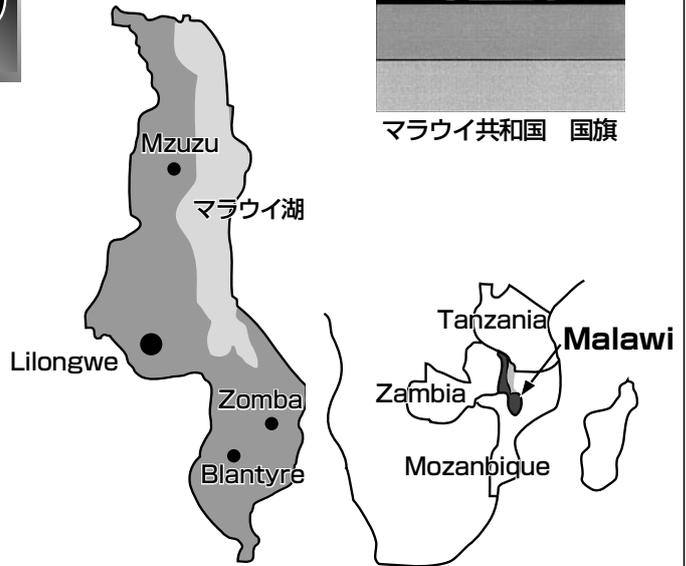
編集・発行：日本マラウイ協会
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付
Tel. 03-3447-2921 Fax 03-5798-4269
Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>
E-mail japan-malawi@mc.newweb.ne.jp

【マラウイ共和国】

面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)
人口：1131 万人 (2000 年推計)、首都：リロングウェ
独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語
政体：共和制、大統領：バキリ・ムルジ
為替レート：US\$1 = MK 108.89 (9 月 3 日現在)
MK 1 = 1.1039 円 (9 月 3 日現在)

【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、
科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする
任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。
会員数：263 人 (9 月 1 日現在)



★★★★★フラッシュ ニュース★★★★★ マラウイ大統領初来日！★★★★★

マラウイのバキリ・ムルジ大統領が来日する(9 月 1 日現在の予定)。これは来る 9 月 29 日～ 10 月 1 日に
東京で開かれる第 3 回アフリカ開発会議(TICAD III)に出席のため。マラウイ大統領が来日するのは、これが
初めて。日本マラウイ協会では詳しいことが判り次第、当会ホームページに掲載する。

■ 第 21 回通常総会開かれる

日本マラウイ協会の第 21 回通常総会が
5 月 10 日(土) 15:00 から、東京・広尾
の青年海外協力隊(JOCV) 広尾訓練研修
センター大会議室で開かれた。

第 1 号議案では平成 14 年度事業報告と
決算報告が行われた。活動は広報活動、文
化活動、国際協力活動、組織活動の 4 分野
が柱となっており、機関紙発行、国際協力
フェスティバル参加、国情セミナー/シマ
を食べる会(懇親会)開催、食糧支援募金
など、平成 14 年度の活動とそれに伴う決
算、会計監査結果が報告された。特に食糧
支援募金(本紙 28、29 号既報)では、昨
年 7 月 6 日の国情セミナー・シマを食べる
会での活動開始から募金総額 142 万円の
WFP(国連世界食糧計画)への送金、そし
て WFP のプロジェクトに割り当てられる
までの経過が詳しく報告された。

第 2 号議案の平成 15 年度事業計画と予
算案では、基本的に前年度と同様に広報活
動、文化活動、国際協力活動、組織活動を
中心に活動を展開していくが、審議の結果、
以下を特記事項とすることになった。

- 当会設立 20 周年記念事業として記念誌
等の発行を行うこととし、詳細については
定例会で検討する。
- 次回(第 3 回)のウォームハートプロジェ
クト申請の受付締切日は 6 月 30 日を予定
する(問い合わせがあったが、申請なし)。

● 食糧支援募金後の情報収集を今後も続
け、会員、帰国隊員等へ周知する。

- 第 1・2 号議案は満場一致で承認された。
- 第 3 号議案の役員改選に関する件では、
下記役員一覧のように承認された。

日本マラウイ協会役員一覧

顧問	秋山忠正	日本マラウイ協会前会長
会長	数原孝憲	元青年海外協力隊事務局長
専務理事	貝塚光宗	(社)青年海外協力協会理事長
理事	瀧美堅持	東京国際大学教授
	池田憲彦	拓殖大学教授
	岡田啓一	前(社)日本シルバーボラン ティアズ専務理事
	堀添勝身	(財)ユースワーカー能力開 発協会理事長
	稲田武司	JOCV マラウイ事務所初代 駐在員
	保坂 努	神奈川県議会議員
	小松健大	千葉県松戸市役所
	山村俊之	(社)青年海外協力協会理事
	中小原淳	(株)団建築設計事務所代表 取締役
	藤村俊作	青森県総合社会教育セン ター
	鶴田伸介	(株)地域計画連合
	吉田 均	磯村豊水機工(株)
	上田秀篤	KDDI(株)
	佐藤賢三	シュロニガー・ジャパン(株)
	松嶋紀子	埼玉県立熊谷農業高校非常 勤講師
	室伏春彦	警視庁
	進藤寿則	クリエイトラボ代表
	河野 進	KDDI(株)
	松平隆一	
	中川 総	仁和会総合病院
	中川朋子	関東学院大学国際センター
監事	竹内明久	(社)青年海外協力協会理事
	江上三喜子	ゆう動物病院

レポート 国情セミナーとシマを食べる会

日本マラウイ協会では 7 月 5 日(土)、
マラウイ独立 39 周年と当会創立 20 周年
を記念して、国情セミナーとシマを食べる
会を開催した。国情セミナーは午後 2 時か
ら、駐日マラウイ国大使 Mr. James John
Chikago が約 1 時間にわたって、最近のマ
ラウイ国内情勢や日本との関係について講
演と質疑応答を行った。



▲国情セミナーで講演する Chikago 大使



▲国情セミナーを熱心に聴く参加者

午後 3 時からは、玄関前の物故隊員慰霊
碑前に集まり、Chikago 大使と数原会長が
献花した後、元 JOCV マラウイ調整員の水

谷恭二氏より、マラウイ在任中に亡くなった 12 名の隊員の名前が読み上げられ、全員で 1 分間の黙祷を行った。



▲シマを食べる会で挨拶する Chikago 大使 (左)

その後、会場を 1 階食堂へ移し「シマを食べる会」を行った。初めにテーブルによるマラウイ警察音楽隊のマラウイ国歌演奏の後、数原会長が独立 39 周年への祝辞を述べた。次に Chikago 大使が、独立記念日行事を催した当会と、マラウイの各分野で活動する青年海外協力隊員および帰国後も日本とマラウイの友好親善・理解促進のために活動している当会会員に謝意を示された。また、チリマ参事官より、大使館職員と職員家族、在日マラウイ人研修生の紹介が行われた。



▲大使夫妻、チリマ参事官と

続いて、水谷恭二氏の乾杯の音頭で会は始まった。大使・大使館職員・家族・OB/OG らはシマを食しながら独立記念日を祝い、懇親を深めた。また、会の後半では、大使館提供によるマラウイ紅茶、コーヒーなどが当たる抽選が行われ、当選者は歓喜に沸いた。

参加者は、遠くは新潟県から来た人など総勢約 70 名となり、当会創立 20 周年記念にふさわしい「シマを食べる会」となった。



▲参加者全員で記念撮影

** マラウイ国情セミナー要旨(仮訳) **

日時：2003 年 7 月 5 日 (土) 14:00 ~ 15:00
場所：青年海外協力隊広尾訓練研修センター 研修室 1

講師：駐日マラウイ国大使
H. E. James John Chikago

■はじめに▶ このような独立記念行事は本来マラウイ大使館が主催すべきなのだが、マラウイが経済の転換期にあることもあり、日本マラウイ協会 (以下、日マ協会) の貢献によっていることを感謝したい。将来は大使館がこうした行事を開催したい。

日マ協会の 20 年間の存在を高く評価したい。日マ協会の創設は大変賢明なことであつたと考える。なぜなら、文化の理解こそが中心課題であるからである。文化の理解がなければ誤解が生じる。

多くの日本の青年がマラウイに行っている理由のひとつは日マ協会の存在であると思う。日マ協会の努力によって、彼らはマラウイの知識を得て安心してマラウイに行くことができる。

日マ協会は、マラウイについて考えるフォーラムであることに加えて、マラウイの情報を普及する役割を果たしていると思う。

自分が天皇陛下に大使就任を報告した際に、「数原会長に会いましたか」と問われた。青年海外協力隊は皇室から高く評価されている。

今年 1 月 31 日には小泉首相がマラウイを例に挙げて協力隊員を賞賛した。彼らはテレビも新幹線も無い途上国の農村部で活躍している。なお、7 月 6 日のジャパントイズに自分が寄稿しているので読んで欲しい (注：併せて当会の数原会長の寄稿も掲載されています)。

■食糧問題▶ マラウイは昨年、深刻な飢饉に直面した。飢饉に対する世界食糧計画 (WFP) を通じた日マ協会の努力にお礼申し上げる。日マ協会の努力は苦しんでいた人々の飢饉克服に大きなインパクトを与えた。

マラウイは、とうもろこし、ソルガム (こうりゃん)、カッサバの援助を受け、飢饉は克服されつつある。

自分は山口県で田植え行事に参加した。今後、マラウイにネリカ米を導入したい (記者注：アフリカ米とアジア米の種間交雑によって育成されたイネは、ハイブリッド米と混同されるのを避けるため、New Rice for Africa を略して NERICA (ネリカ) と呼ばれる)。

今年は、備蓄も含み 220 万トンのとうもろこしの供給が見込まれている。これは必要量の 210 万トンを満たすものであり安心である。しかし、この数字は来年 6 月までの話にすぎない。

不幸なことに、近年のマラウイの気象は厳しいものだ。例えば洪水によって、ある JICA のプロジェクトは流されてしまった。今年のサイクロンによる洪水では、人命は失われなかったが甚大な被害が生じた。

2007 年までインド洋の水位が上がり、サイクロンが起きやすくなっているとのことだ。洪水や大雨に対する継続的な努力が必要だ。ネリカ米が導入されれば、雨が多ければ稲、そうでなければとうもろこしを確保することで対処可能かもしれない。

■社会経済▶ マラウイの経済は農村に基づいており、村落から始まる。従来、タバコは経済のエンジンであった。しかし、世界保健機関 (WHO) はタバコに反対している。マラウイのタバコを購入している日本たばこ (JT) の需要も減少している。紅茶の流通は国際的に強力で操作されており、マラウイの会社は大きな利益をあげられないようになっている。これらの産品やコーヒーは低価格に苦しんでいる。これらの価格は原産地で低く、消費地では高い。ただし農産品のなかで最も重要なのは、やはり主食のとうもろこしだ。

食糧生産が低下した昨シーズンは経済も不調だった。とうもろこしもタバコも不調で、経済も不調となった。マラウイはこうした困難の克服策を探している。日本はタバコを通じてマラウイの経済を助けてきた。しかしタバコに限る必要はない。例えば大豆だ。マラウイの土壌はタバコだけに適しているわけではない。大豆を栽培することもできよう。現在 1 米ドルは約 92 マラウイクワチャだ。このようなクワチャ安では石油や石炭の原料など生産要素の輸入が高くなり、インフレを助長している。

社会の安全と経済の発展が現在の優先課題だ。マラウイ国民は民主主義の意味と民主主義の擁護について考えるべきだ。マラウイへのパッケージツアーを組むと、以前との違いがわかるだろう。現在 3 大政党として、United Democratic Front (UDF: 現与党)、Malawi Congress Party (MCP)、Alliance for Democracy (AFD) がある。政治はダイナミックだ。民主主義はひとつの出来事ではなく、始まりはあるが終わりの無い過程だ。厳格な独裁政治から離れて憲法が制定された。その際、米国や英国の憲法が参考にされた。しかし、状況は国によって異なるはずだ。マラウイの文化などの社会的枠組みは、それら諸国の枠組みとは異なっている。新しい制度による改善は確かに存在する。しかし経済は問題のまま。経済発展のためには種々のインセンティブが必要だ。

マラウイは日本人のピザを免除した。マラウイの目指すことは、ピザを免除することによってマラウイを日本のひとつの県のようにし、投資を促進することだ。

英国は 19 世紀末から 1964 年までマラウイを支配したが、良い成果をあげなかった。日本人がマラウイに行けばよい成果がでると思う。

日本はマラウイを変えることができ

る。ある学者によると日本は途上国に対して3種類のカネを持っている。(1)原材料を買うためのカネ、(2)アジアの高い技能を求めカネ、(3)市場を求めカネだ。マラウイは南部アフリカ開発共同体(SADC: Southern African Development Community)や東部南部アフリカ共同市場(COMESA: Common Market for Eastern and Southern Africa)の市場を持っているが投資は活発ではない。

マラウイは日本のための原材料を持っている。例えば大豆だ。マラウイ政府は日本の種子遺伝子センターにマラウイの大豆を送り、豆腐に適しているかどうか調べている。また滝川市にも送り特性を調べて日本へ大豆を輸出する可能性を検討している。日本は品質を重視する点が課題だ。

学者たちは、貿易や投資のためには政治的安定性が重要だと言う。しかし南部アフリカにおける二つの大投資受入国はコンゴ民主共和国(DRC)とアンゴラで、両国とも政治的に不安定だ。現実には政治的な安定性より資源の方が優先するようだ。他の例としては、ブランタイア市にあったBATという会社があげられる。BATは閉鎖され、政情不安のジンバブウェに移転した。その理由はマラウイには十分な資源と市場が無いことのようなのだ。

もし、まずマラウイに日本から小規模な会社に来て歯ブラシを製造してSADCに販売するとか、中国製品に代わってボタンを製造するようになれば、その後、三井のような大企業が来よう。

■民主主義▶ 憲法は大統領の任期を2期までとしている。1期は5年であり現ムルジ大統領の任期は1994年~2004年だ。現在、各党において大統領候補指名に向けた作業が進捗している。政党によっては混乱が見られる。マラウイには29の政治グループがあり、多くの人が大統領になりたがっている。

マラウイでは今では三権分立が確立されており、立法、司法、行政は相互に独立している。

一方で不和も生じている。マラウイは貧しい国であり、飢饉が発生したこともあり多くのNGOが広がっている。それらの中には回教国からのグループもあり、一部はアルカイダとつながっている。マラウイ政府とCIAは5人を特定したが、国外退去などの処置が民主憲法との関係において問題となっている。マラウイを援助することを名目としたこうしたグループの存在は問題である。

■今後の課題▶ 現在までの重点課題は貧困削減と民主主義であったが、もし次回の選挙でUDFが勝てば、重点課題は社会の安全と経済の発展であろう。

青年海外協力協会(JOICA)は来年からマ

ラウイ国民のボランティアグループによる活動を開始することを計画している。同計画は日本人がマラウイに行くだけでなく、マラウイ人によるオーナーシップ(当事者意識)やパートナーシップを重視するものだ。

■質疑応答▼

Q マラウイの紅茶の販売はどう促進しているか。

A マラウイは紅茶の販売に努めている。自分は15年間紅茶に携わっている。日東紅茶はマラウイの紅茶だ。紅茶の流通には植民地支配の影響が残っている。マラウイ紅茶はロンドンに低価格で売られる。マラウイに入る収入は少ない。そして日本には高い値段で売られる。このシステムを破ることは難しい。しかし今では個人で紅茶を輸入することができる。DHLで紅茶を輸送できる。タバタという会社がマラウイからマカデミアンナッツを輸入しており、需要が供給を上回っているとのことだ。

【主なマラウイ側参加者】

Madame Margaret Chikago (大使夫人)

Mr. Efrem Chilima (参事官)

Ms. Kumiko Makino (秘書)

Ms. Tamaki Otsubo (秘書)

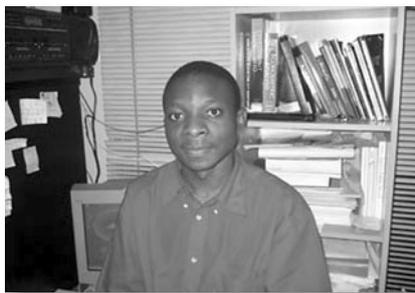
Mr. Kenzo Fujimori (マラウイ大使館
通商関係) 名誉顧問)

農業開発局職員 Dr. Munthali (研修員)

リロングェ市職員 (研修員)

水産局職員 (研修員)

寄稿1 シマを食べる会に参加したマラウイ人留学生 Peter Chikabadwa さんからの寄稿です。



■ I miss home; I love Japan

Moni onse. Ine ndine Peter Chikabadwa.

Thank you for the opportunity to introduce myself in this newsletter.

I have been in Japan since April 1, 2002, studying Public Policy & Taxation, a two-year program at Yokohama National University. In Malawi, I work in the Income Tax Division of the Malawi Revenue Authority.

It was so exciting meeting some of the Japanese people who worked in Malawi, at the *nshima wo taberu kai* and I was happy to make more friends, some of whom I was able to meet again at *hanabi* in Zushi city. Its wonderful to know you feel attached to Malawi and can relate to it.

Japan is the first foreign country I have lived in. There are a few things a foreigner cannot miss in Japan. Though prices are high and the language may be tough, daily life may not be as tough. Security is good, the public transport system is efficient, and most importantly, people are respectful and usually happy to help.

I love Japan but I miss home. I look forward to seeing Lake Malawi again and eating lots of mangoes and other fruits. However, my excitement almost fades when I know that I will have to familiarize myself with seeing poor orphaned children everyday, most of whom are hopeless about their future. It is my hope that together we can work to more directly benefit groups like these in our various fields of work and other initiatives we may hopefully initiate.

Malawi is so small. After talking to an ex-JOCV member, I discovered he lived just two houses away from where I was staying in Barron Avenue. So if any of you or anyone you know are ever in Malawi, please try to get in touch. I will be glad to invite you home. Wishing you all a pleasant summer.

寄稿2

マラウイに来て1年 (剣道のこと)

JICA 専門家 川上康博

皆様初めまして。私は、昨年8月から国際協力事業団(JICA)の長期専門家(地方電化計画アドバイザー)として、マラウイに派遣されています。家族(妻直美?歳、長男大介8歳、次男元也6歳、そして三男文久3歳)も一緒に連れてきています。私がジョギング中に犬に噛まれたハプニング以外は特に問題もなく、皆元気でリロングェで暮らしています。

さて、私は小学校1年から剣道を始め、現在に至るまで続けています(全然上達しません)。妻も剣道をしており、大学の剣道部で知り合った縁で結婚しました。出国直前にマラウイに剣道協会があることを聞き、輸送荷物に防具と竹刀を入れて送りました。赴任当初は、家や仕事そして家族のことに忙しく、なかなか参加することができなかったのですが、マラウイの少年たちに剣道を教え始めた中川総さん(JOCV平成3年度3次隊、栄養士)、そして剣道協会設立にご尽力されたブランタイア在住の小林由季さん(元JICA専門家)と連絡を取り合い、2月によく稽古に参加することができました。



▲剣道協会メンバーと家族で

当日は折しも雨季特有の大雨、10人くらい来ているはずの部員は4名でした。雨が降るとスケジュールが狂うマラウイならではのことでした。最初でしたので、まずは全部の稽古に参加しようと思い、体操・素振り・基本打ち・試合稽古と順番にこなしたのですが、彼らの印象は当初思っていたのとは全然違いました。まず、非常に礼儀正しいということです。日本の学校で教えている剣道は試合が多く、勝つことに集中するあまり、普段の態度に問題があることもあるのですが、彼らはそうではなく、「礼に始まり礼に終わる」という正し

い剣道の姿を示してくれました。さらに意外だったのは、外国の人にありがちな力任せの剣道、つまり打たれると痛い剣道をしていなかったことです。最初着替えている姿を見るとすごい筋肉で、これは打たれたら痛いと思ったのですが、いざ打たせてみると手首を利かせた打ち方でむしろ物足りない位でした。問題は私の体力で、20代前半の彼らと打ち合うことが非常にしんどく、次回からは細かい指導をするという名目で、少し休み休みやっています。

稽古の後には、中川さんから教わったという「仮面ライダーの歌」を我が家の子供たちに披露してくれ、1回目でかなりうち解けることができました。

また、リロングウェでは土日の朝に日本の子供たちに剣道を教えているのですが、最近ハンガリー人の弟子ができました。彼はテコンドーの有段者ですが、以前から剣道に興味を持っており、毎週熱心に来ています。テコンドーと剣道の足捌きが似ていることもあり、上達が早く、最近遊びに来た弟に防具を日本から持ってきてもらって

稽古を始めています。

現在私の問題は、「ブランチアが遠すぎる」ことに尽きます。本当ならば毎週でも行きたいのですが、なかなか思うようにはいきません。常時稽古をつけてくれる人がいればいいのですが……。任期があと1年あるので何とか多くの稽古に参加し、さらにマラウイ剣道の裾野を広げて、いずれはアフリカ選手権（今のところありませんが）、世界選手権で活躍する彼らの姿を見たいものです。

《日本マラウイ協会》 平成 15 年 3 月～8 月活動内容

- ① [3月26日] 機関紙 KWACHA 第29号発行
- ② [5月10日] 第21回通常総会開催
(1面の記事参照)
- ③ [7月5日] 国情セミナー・シマを食べる会
開催 (1～3面の記事参照)
- ④ ホームページの更新
[3月～8月] 食糧支援募金ページ更新
[8月22日] KWACHA バックナンバーを
PDF ファイル化して掲載

日本マラウイ協会情報

■「国際協力フェスティバル 2003」出展協力者募集

毎年恒例の「国際協力フェスティバル」が来る10月4・5日(土・日)に東京・日比谷公園で開催されます。日本マラウイ協会は今年もマラウイの紹介や民芸品の販売などを計画しています。当日のスタッフを募集していますので、お手伝いいただける方は右記の電話・FAX・E-Mailへご連絡をお願いします。

■駐日マラウイ大使館ホームページ URL 変更

駐日マラウイ大使館のホームページがリニューアルし、URLが次のように変更になりました。

新 URL : <http://www.malawiembassy.org/>

■KWACHA バックナンバー

当会は今年2月26日に創立20周年を迎えました。これを記念して創立時の機関紙 KWACHA 第1号から第29号(前号)までの全バックナンバーをPDFファイル化し、当会ホームページへ掲載しました。是非ご覧下さい。

URL : <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>

から「日本語」を選択、左端のメニューから「機関紙 KWACHA」をクリックすると、右ページに号数一覧が出てきますので、希望の号数をクリックしてください。

■日本マラウイ協会の刊行物

- ① チェワ語辞典 統合改訂版 (2000年7月発行)
B5版 186ページ 1部 1,500円 (送料290円)
- ② マラウイ旅行ガイド 新訂第2版 (97年7月発行)「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」B5版 108ページ 1部 1,200円 (送料210円)
- ③ 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第2版 (94年7月発行) A4版 40ページ 1部 1,000円 (送料210円)

送料は「冊子小包郵便物」扱いで表示しています。複数種を1冊づつご注文の場合は、次のとおりです。

① + ② = 340円 ② + ③ = 290円

① + ③ = 340円 ① + ② + ③ = 340円

各書ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の郵便振替口座に、代金および送料をお送りください。その際、振替用紙の通信欄に必ず「xxxx xx冊希望」と明記してください。

■ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご連絡ください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

■日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、毎月第3水曜日18:30～に、東京都内(通常はJOCV 広尾訓練研修センター1F 研修室2)で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは当協会までお問い合わせください。

■日本マラウイ協会 入会方法

ご連絡いただければ入会申込書をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。E-Mailで入会希望の旨を連絡くださっても構いません。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合1,000円 + 3,000円 = 4,000円)を下記の郵便振替口座へお送りください。

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24

青年海外協力協会気付

日本マラウイ協会

TEL: 03-3447-2921

FAX: 03-5798-4269

E-mail: japan-malawi@mc.newweb.ne.jp

郵便振替 00190-7-13125、加入者名 日本マラウイ協会

また、協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。